

学校運営協議会議事録

校名	府立泉陽高等学校
校長名	栗山 悟

開催日時	令和8年5月21日(木)15:30 ～ 17:00
開催場所	泉陽高等学校 同窓会館
出席者(委員)	木村雅昭委員長・岡本雄介委員・丸井理恵委員 志賀亮子委員・古谷啓子委員
出席者(学校)	栗山校長、藤林教頭、明山首席、黒木首席、野坂教務部長、中尾総務部長、藤本進路指導主事、坂井保健主事、石橋ICT部長、岩久保生徒会部長、山村3学年主任、塩川2学年主任、中田1学年主任
傍聴者	0名
協議資料	広報改革「広報活動費」
備考	

議題等(次第順)

- 学校教育活動に関する意見について(事務局報告)
教員の授業その他教育活動に関する苦情や意見の申立てはなかった旨が報告された。
- 令和7年度 学校評価について
評価内容について説明があり、審議の結果、全会一致で承認された。
- 令和8年度 学校経営計画について
新たな「文理探究科」の設置準備等を大きな柱とし、本校がめざす生徒像の実現に向けた計画について説明がなされた。
- 学年・分掌からの報告(学年目標・業務内容および現状)

協議内容・承認事項等(意見の概要)

府教育庁が推進する「広報改革(アクションプラン)」の3つの柱の1つに基づき、本校への「府立学校広報活動費」の配分、および「域内横断型プロモーション活動支援」について事務局より説明があった。これを受け、本校の魅力発信と志願者増に向けたアイデアや課題について協議が行われた。

【委員の主な意見・提案】

・SNSの有効性

Instagram広告の活用は非常に有効である。実際にInstagramの投稿を見て入部を希望してきた生徒が複数おり、受験生の「入口」としての認知効果は非常に強い。積極的なSNS活用を進めるべきである。

Webサイト(ホームページ)は現状スチール写真が中心で、動画コンテンツが少ない。受験生や保護者には、学校や先生・生徒のリアルな「雰囲気」が伝わる発信が最も有効であるため、今後はショート動画やダイナミックな動画を増やすなど、動画コンテンツの充実が必要である。

・同窓会との連携・プロの活用

予算の範囲内でできることには限りがあるが、校内には発信できる魅力的な素材がたくさんある。同窓会等の支援も仰ぎながら、動画制作などでプロや専門的知識を有する外部人材の関与・支援を得るのが望ましい。

・ブランド力・強みの認知向上

泉陽高校の強みである「探究活動」での頑張りや、生徒が各分野で活躍する姿を前面に出し、学校全体の知名度とブランド力を向上させる広報戦略を意識すべきである。

【課題と懸念事項】

・教員の業務負担への配慮

魅力的な広報アイデアは尽きないが、すべてを教員が担うとなると業務過多(オーバーワーク)になる懸念が強い。

現在、学校説明会は総務部、Instagramの更新は特定の教員が中心となって担っているとのことだが、持続可能な運用のために、まずは学校全体の「広報担当体制」を明確に整理・集約することが先決である。

次の会議日程

日時	令和8年10月22日(木)15:20～
会場	泉陽高等学校 同窓会館